



F-SOAIP（生活支援記録法）とは、多職種協働によるマイクロ・メゾ・マクロレベルの実践過程において、生活モデルの視点から、当事者ニーズや観察、支援の根拠、働きかけと当事者の反応等を「F（焦点）」「S（主観的情報・利用者の言葉等）」「O（客観的情報）」「A（アセスメント・考えたこと）」「I（介入・対応したこと）」「P（今後の予定）」の項目で可視化し、PDC Aサイクルに多面的効果を生むリフレクティブな経過記録の方法。

1人でケアを提供する訪問介護にこそ、支援経過を可視化できるF-SOAIPをもっと活用してもらいたいと思います。今回は、ヘルパーによる支援の専門性をF-SOAIPで明らかにし、評価を高めることを目指している牧野裕美さんと石井幸枝さんにご執筆いただきます。

専門性を可視化できるF-SOAIPで ヘルパーの「相談援助」に正当な評価を

（株）ケアサービスひかり ひかり指定訪問介護事業所・ひかり指定定期巡回管理者・サービス提供責任者 牧野裕美

ヘルパーの専門性は身体介護・ 生活援助の基盤に「相談援助」あり

2024年度の介護報酬改定において、介護保険サービスの改定率が上がる中、訪問介護事業は、基本報酬が引き下げられるマイナス改定という信じ難い結果となった。「住み慣れた町で最期まで」という地域包括ケアシステムの要は「訪問介護」ありきだ。ヘルパーは必要なのかという憤りさえ感じた。訪問介護員（以下、ヘルパー）の従事者は

有資格者でなければならないが、「専門職」と認識されていない。課題として残る要介護1と2を総合事業にという議論はその証なのではないか。

訪問介護はケアプランに位置づけられ、平成12年3月17日 厚生省老人保健福祉局 老人福祉計画課長通知老計第10号「訪問介護におけるサービス行為ごとの区分等」（以下、「老計第10号」と略す。）において、身体介護と生活援助に区分されたうえ、援助内容が明示され手順まで例示されている。

再確認されなければならないことは、身体介護にも生活援助にも「サービス準備・記録等」の事前準備において「相談援助、情報収集・提供」が位置づけられているということである。身体介護・生活援助においても、「相談援助」¹⁾が必須の業務として示されているということに着目していただきたい。

介護保険の自立支援・QOLの向上・重度化防止の理念の下の訪問介護サービスの大きな目的は、利用者の意欲の向上にあると考える。衰える心身機能の低下・社会的疎外感は、年齢を重ねるごとに誰もが体感することである。

今まで「できていた」ことが「できなくなる」といったことが増える中、まずは利用者と話し合う「相談援助」を行い、利用者の望む生活を傾聴し、あるいは引き出し、支持する。そして、具体的に日々の生活の中で「どのようにすれば、自分でできるのか、やり続けることができるのか」を具体化するための「相談援助」を行う。このようなコミュニケーションを通じた「相談援助」から始まり、身体介護・生活援助を展開することこそがヘルパーのミッションである。

前述の「老計第10号」は平成30年4月、身体介護の内容が見直され、利用者と共に行動する援助や常時介助できる状態で行う見守り介助が評価されるようになった。だが、残念ながらこの見直しは、いまだ介護支援専門員に浸透していないのが現状だ。

ヘルパーは、訪問するたびに利用者の日々の生活での困りごとを聞き、どうしたら解決できるか共に考え、手段を提供し利用者主体的に実行してもらえようように意図的に支援する。これらの作業は、全て「相談援助」が基盤になる。それは、身体介護においても生活援助

プロフィール

牧野裕美

介護福祉士／介護支援専門員。日本ホームヘルパー協会東京都支部副会長。東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科卒業。2000年より24時間365日型の訪問介護事業所の管理者・サービス提供責任者として障害医療的ケア児から高齢者のヘルパーとして従事。地域包括ケアシステムの要は訪問介護にあると考え、ヘルパーの専門性と魅力を伝えている。分担執筆「第7章 訪問介護現場とハラスメント」『介護現場でセクハラ・パワハラを起こさない』（ぎょうせい、2022年）



図1 ホームヘルパー向け F-SOAIP 練習用シート

生活支援記録法 (F-SOAIP) で訪問介護記録を書く練習をしよう	
書く内容を決める。	F 様々な出来事を簡潔に書くテーマのこと
・生活援助の記録を優先する	S 本人の言葉 キーパーソンの言葉 (関係を表記)
・会社に報告が必要と感じたこと	O 観察や多職種から得た情報
・自立支援や悪化の防止につながる内容	A ヘルパー自身の判断や解釈
・ヘルパー自身が特に書き残したいと感じたこと	I ヘルパーが行った支援、声掛け、連絡等
・訪問介護計画書の目標に関する内容 等	P 当面の対応の予定
本人情報：要介護3女性、90歳、一人暮らし／ 身体1生活1(服薬介助、食事の用意)／認知症(短期記憶障害、被害妄想、サービス拒否)	
F	日々違う物忘れの訴えの対応に苦慮する
S	「この赤いペンうちのじゃない」「これもうちのじゃない」「誰か家に入ってんじゃないの?」「気持ち悪い」
O	古い物どこからか出しては不穏になる。毎回、もの忘れの困りごとを訴える。
A	必要ないのに目の前にあると気になるので片づけたほうがいい。
I	「〇〇さんのものでないものは紙袋にいれておきましょう」
S	「そうね」と言い、次々入れていた。
I	袋は見えない場所に片づけた。
P	物忘れの対応に時間を要すが、困りごとを解決してあげて食事や服薬ができるようにする
提供：石井幸枝 (様式考案及び記載例作成)	

においても外すことのできない専門性を要する支援である。介護報酬上の評価の高い身体介護も、ただ単にヘルパー自身の身体を使い、利用者の身体に触れていることだけの支援ではない。身体介護が成り立つのも、体調はどうか? 介助の方法は変わらない方法で良いのか? 手順はどうか? 「相談援助」があってこそ利用者の体調を維持することができる。

利用者の困りごとは、日々の生活の中で広範囲にあり、家族関係、財産にも影響し、プライバシーにも関する。誰にでも簡単に話せる内容でないことも多くある。

ヘルパーが同じ曜日の同じ時間に訪問し援助を続けることで、利用者との関係性、信頼を構築することができる。その上で、より質の高い「相談援助」を行うことができる。ヘルパーで解決できない問題は、介護支援専門員や他の

サービスに繋げる。ヘルパーの「訪問介護サービス」は「相談援助」という専門性と高い技術を要する援助が基盤にあつて、はじめて、身体介護と生活援助に区分できるものである。「相談援助」なしにサービスが提供されるものではない。

F-SOAIPでヘルパーの専門性を可視化したい

利用者のそれぞれの家庭環境で、利用者の潜在的な能力をアセスメントしながら、能力発揮するための手段を提供する「相談援助」は、ヘルパーならではの専門性を要する。

しかしながら、専門性を発揮している場所が利用者の「お城」の中という閉鎖された空間では、ヘルパーの専門性が他者には見えない。専門的な援助を可視化するのも、透明性を図るのも記録によるしかない。ICTによるペーパー

レス化を始めた弊社では、登録型のヘルパーが出社する機会は激減している。切れ目のない援助をつなぐためには、今まで以上にわかりやすい記録を書くことが重要になっている。だが、書くことを苦手としているヘルパーへの指導方法に悩んでいた。そんな時、職能団体の機関誌『ホームヘルパー』で、ヘルパーの記録としてF-SOAIPが実践されているということを知った²⁾。

実際にヘルパーの記録をF-SOAIPで書き直してみると(図1)、S(主観的情報・利用者の言葉等)からP(今後の予定)へ飛んでしまっている記録が多いことに気付いた。また、F-SOAIPで記載すると、あたかも自分が援助を行ったようなその場の風景が浮かんでくる。そして、根拠ある介護の実践が視覚化されることで、訪問介護の専門性が実証されたと考える。

注釈

1) 「相談援助」の用語は、「老計第10号」で用いられているため、本稿では「書きとして使用したが、本来は「援助」と「支援」の意味の違いに鑑み(例えば、Domani、似ているようで実は異なる。`支援、と`援助、の意味の違いは!?!? <https://domani.shogakukan.co.jp/574338>)、相談支援とすることが望まれる。

2) 石井幸枝、訪問介護あるある 記録から「困りごとを解決」の方法について提案、ホームヘルパー、551、2024年、11-13頁

参考文献

・嵩末憲子・小嶋章吾、利用者とのコミュニケーション(7-22頁)、家族とのコミュニケーション(29-39頁)、介護職による相談援助(61-76頁)、コラム 生活支援記録法(F-SOAIP)ー経過記録法のイノベーション(153頁)、『コミュニケーション技術』一般財団法人長寿社会開発センター、2019年
 ・小嶋章吾・嵩末憲子『M-GTAによる生活場面面接研究の応用～実践・研究・教育をつなぐ理論～』ハーベスト社、2015年

「ホームヘルパー向けF-SOAIP練習用シート」を考案 訪問介護員の現任訓練に活用中

(有)スマイル企画 ヘルパーステーション末広 居宅介護支援事業所・訪問介護
介護支援専門員・訪問介護員 石井幸枝

訪問介護のヘルパーはサービス終了時に記録を書くようになっていますが、時間がなく、今は楽に記録ができるようにするため ICT の導入が進んでいます。ただ、実施したことだけを書く、あるいはチェックするような方法では質の向上に役立つものになりません。

F-SOAIPは実践過程を可視化ができる記録法なので、行ったケアが専門性に乏しければ、仲間同士の対話により新たな視点を学び合うことができます。F-SOAIPで書いた記録を活用して、ヘルパーの実践の質の向上に活かしていきたいと思っています。

F-SOAIPで書き続けることで、専門性の向上を図ることができることを実感していますが、そこに到達するまでには時間が必要であることも確かです。特に訪問介護においては、他の介護職以上にヘルパーの高齢化も進んでおり、介護保険が始まって23年以上経った今

では、慣れた記録の方法を変えることは、想像以上に難しいことなのです。

自分の書いた記録がきちんと伝わるものとなっているかどうかはなかなか分からないものです。その点、F-SOAIPによる記録は実践が可視化されることで、逆に、専門性がないケアも明らかになります。だからこそその記録を利用して専門性を高めるために、筆者の訪問介護事業所では独自にヘルパーの練習用のシートを考案し、使ってもらっています(図1)。

また、現在のところ、自事業所のヘルパーにF-SOAIPを使い慣れてもらうことに力を入れており、介護支援専門員の自分自身は未だ業務に定着させているとは言えませんが、下記のように、支援経過記録についてのF-SOAIPへの書き換えを行ってみました。

事例概要：79歳、女性。家族とは疎遠。アルツハイマー型認知症、要介護4

3月14日、訪問すると看護師からペットボトルの蓋を口に入れたり、異食がある。

衣類が自分の物でないと言い、破き捨てていると報告を受ける。

部屋には自分の家具があり小物類も多いので口に入れて詰まらせてしまうことが心配。

部屋ではテレビもつかないようになっていて、ベッドでぼんやり座っていた。

下に落ちると立ちあがれずいるとの事。右腕がまだ痛いと言った。訪問時は、オムツをはずし、床に破きまき散らし、お尻はシャツを巻き隠していた。手間がかかるようで施設職員からは見て下さいよと言われた。配膳される食事は摂れ、服薬は介助され飲めるが、精神薬の影響か歩行はふらつき足が出ず歩けない。声掛けに「何もできないで御免なさい」と言われた。

日中は週5日、デイサービスで見守られ問題なく過ごしているとの事だが、夜間も含め一人の時間が長すぎる。今はサ高住なので常時見守りは無理で仕方ない。特養しかない。

入所が決まるまでショートステイで繋げたい。家族に状況と、特養に移る方がいいことを説明することにする。生活保護にはショートステイの間、サ高住の部屋代を払ってもらいたいと頼み、今の部屋には戻らないようにしたい。

プロフィール

石井幸枝

昭和28年生。介護支援

専門員／介護福祉士

2004年3月まで行政の

家庭奉仕員と介護支援

専門員等に従事。同年4月、葛飾区にヘル

パーステーション末広を開設。現在までホーム

ヘルパーとケアマネジャーを兼務。日本

ホームヘルパー協会東京都支部理事。訪問

介護の一本化の実現のため、専門性が見える

F-SOAIPで書かれた記録を全国から集め

まとめて、行政や介護に従事していない方々

にも読んでもらい、訪問介護の重要性への

理解と感動を示したい。



F-SOAIPへの書き換え例

3月14日 訪問

O(看護師)：ペットボトルの蓋を口に入れたり、異食がある。

衣類が自分の物でないと言い、破き捨てている。

A：部屋には自分の家具があり小物類も多いので口に入れて詰まらせてしまうことが心配。

O：部屋ではテレビもつかないようになっ

図1 ヘルパー向けF-SOAI P練習シート

生活支援記録法(F-SOAI P)で訪問介護記録を書く練習をしよう

書く内容を決める。

- ・生活援助の記録を優先する
- ・会社に報告が必要と感じたこと
- ・自立支援や悪化の防止につながる内容
- ・ヘルパー自身が特に書き残したいと感じたこと
- ・訪問介護目標

F 様々な出来事を簡潔に書くテーマのこと
S 本人の言葉 キーバンスンの言葉 (関係を表記)
O 観察や多職種から得られた情報
A ヘルパー自身の判断や解釈
I ヘルパーが行った支援、声掛け、連絡等
P 当面の対応の予定

日付	R5.610	利用者	K氏 男性 85歳 独居	身体1生活2	家事 オムツ交換、他	要介護5	心臓病 認知症	記録者	IS
F	回想への傾聴 (のど自慢への出演)								
S	「俺も出たことあるんだ。橋幸夫の潮来笠を歌って、鐘3つだった。」テレビを観ながら大きい声で言う。								
I	「本当! ?」調理の手を休めそばに行き聞いた。								
O	車椅子に乗りながら身振り手振りで歌い踊って見せてくれ、思い出話をする。								
S	「あちこち村に呼ばれ祭りで歌った。」「金もらえたからよかったよ。」「15歳くらいかな。」								
A	よく思い出話をするが、家事をやりながら聞いていると「関係ないか…」と言って離れてしまうのがっかりさせたくない。								
I	一時、そばで話を聞き、過ごした。								
P	聞かせるがあるので話したくなるのだろうから、楽しい時間を過ごしてもらおう為、今後も回想の話はきちんと傾聴していく。								

F-SOAI P記録の練習シートの使い方
 記録する内容は訪問時の様子で何を書いても良いが、何を書けばいいのかわからない方の為に4つの項目を参考の為に表している。5つ目には何も書かれていないが、利用者ごとに記録に残してほしい内容があれば書いておくことで、ヘルパーは迷わずに記録できる。例えば、「食事について」「体調について」等、書いておく。
 全て、決まっていないので自由に分かりやすくすればいい。
 右側にはF-SOAI Pで決められている項目を見ながら書けるようにしている。
 シートの一番上はF、最後の段はPと予め書いておくのは決まりになる。2段目からSOAIを一応書いてあるが、実際のシートには書かれていない。
 順番通りでなかったり、繰り返しSOAIが出てきたりするからである。シートはエクセルで作成しているので自由に増やしたり減らしたりできる。
 実際の記録用紙にはF-SOAI Pで書くための枠はあるが、全ては書けない場合がある。例えば、SやOのマークは付いているが、その他はどう書けばいいのかわからず止ってしまふ。その記録を練習シートに書き写し、自分のケアを思いだして完成させる。

ていて、ベットでぼんやり座ってた。
 オムツをはずし床に破き、まき散らしお尻はシャツを巻き隠していた。
 S:下に落ちると立ちあがれずいる。右腕がまだ痛い。
 手間がかかるようで施設職員からは見て下さいよ、と言われた。
 配膳される食事は摂れ、服薬は介助され飲めるが、精神薬の影響か歩行はふらつき足が出ず歩けない。(声掛けに対して)何もできないで御免なさい。
 日中は週5日、デイサービスで見守られ問題なく過ごしている。
 A:夜間も含め一人の時間が長すぎる。
 今はサ高住なので常時見守りは無

理で仕方ない。
 特養しかない。入所が決まるまでショートステイで繋げたい。
 P:家族に状況と、特養に移る方がいいことを説明することにする。
 生活保護にはショートステイの間、サ高住の部屋代を払ってもらいたいと頼み、今の部屋には戻らないようにしたい。
 次回の介護報酬改定までには、ヘルパーの専門性を可視化し、ヘルパーが専門職であることを証明できればと考えています。そのためには、F-SOAI Pを使用した記録方法により、ヘルパーの実践が根拠ある介護となっていることを

明らかにしていきたいと考えています。
 2024年3月から、事業所で月間記録賞と年間記録賞を作りました。上手く書けた人ではありません。専門性が見える視点で書かれているものを1つ選び、一緒に「ホームヘルパー向けF-SOAI P練習用シート」に書き、仕上げます。記録賞の記録は皆が見えるように置いています。皆さんも頑張りましょうという意味ではありません。読むと自分も同じようなことをしているということが客観的にわかるからです。でも、書いてもらわないとわからないと伝えています。面白いのは、その人はそれ以後、普段からF-SOAI Pで書けるようになります。

ホームヘルパーによるF-SOAIPの継続がイノベーションに ～訪問介護実践の可視化でケアの諸課題解決を目指して～

一般社団法人F-SOAIP実践・教育研究所 共同代表理事
埼玉県立大学 蔦末憲子 / 国際医療福祉大学大学院 小嶋章吾

訪問介護に F-SOAIP を求める 切実な声

今回は、「F-SOAIP 発祥のサービス」とも
言える訪問介護からの力強いメッセージを関
係団体や行政、政策立案者に届けてほしい。
編者らは、訪問介護における身体介護や生活
援助とともに相談援助が統合的に提供されて
いる特徴や専門性を明示化すべく研究に着
手し、F-SOAIP の開発に至った。F-SOAIP
の社会実装が進む中、石井氏によるホームヘル
パー機関紙への投稿から直ぐに牧野氏が
本報告をまとめたことは、まさに『協創型イノ
ベーションリサーチ』にメディアが重要な役割
を担っていることの好例である。

専門性向上をめざす訪問介護のリーダー自
らが正当な評価を求めて F-SOAIP を活用さ

れていること、継続するために「ヘルパー向け
F-SOAIP 練習シート」を OJT 用の教材とし
て主体的に開発されたことは、介護のモチ
ベーションややりがいを高めることであり、これ
こそが介護の魅力発信ではないだろうか。

ホームヘルパーによる F-SOAIP データがイノベーションを

専門職のなかで利用者や家族のニーズを
最も把握しうる立場にある訪問介護員が、認
知症ケア等においても F-SOAIP を活用する
ことは、医療と介護連携や、介護支援専門員と
訪問介護員と連携の促進に寄与しうると同時
に、そこに蓄積されるデータが多くの課題に資
するイノベーションとなるであろう。

2024 年度の介護報酬改定の根拠として、
サ高住などと通常の訪問介護事業所におけ

る F-SOAIP のデータが集約されていればと
悔やまれる。他方、F-SOAIP は外国人介
護士にも有効で早期に学ぶほど理解が進み、
すでに F-SOAIP を搭載したシステムベンダー
の英知を相互利用できれば、AI や DX を通
じ、新たな価値を生み出し課題解決もできる。
次期介護報酬改定や働き方改革に向けて、
サ責による訪問介護員への面談記録にも
F-SOAIP で残してもらいたい。

社会保障費が逼迫する中、目の前の課題
に個別に対策を講じることは効率的ではない。
根源的な解決として、カスタマーハラスメントや
意思決定支援、看取りなど訪問介護の様々な
課題解決に横断的に資する F-SOAIP を訪
問介護にこそ導入できるよう、政治主導や関
係団体の英断が望まれる。

コグニト 褥瘡予測システム 3.0 A

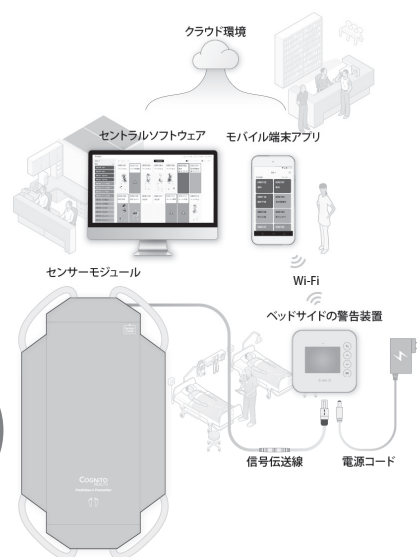
10 月発売予定

「離床センサーと褥瘡ケアに特化した見守りシステム」

- 独自の多段階の離床通知でスタッフの負荷を軽減
- 利用者さんの 24 時間見守り
- パソコンとモバイル端末でリアルタイム通知
- 利用者さんの習慣や症状に合わせて個別に通知設定が可能
- 体圧履歴からリスクの高い部位の予測が可能



第 26 回日本褥瘡学会学術集会
展示予定!



お問い合わせ

株式会社
EXCEL エクセルエンジニアリング
Excel Engineering Co.,LTD.

TEL 03-5280-7120

FAX 03-5280-7123

【東京本社】東京都千代田区神田小川町 2-12-14 晴花ビル 9F